

縁

縁プロジェクト&DAREDEMO HERO

DAREDEMO
HERO

災害助け隊 IN フィリピン 第2弾

活動報告書



日程：平成26年7月3日～7日
活動地域：フィリピン レイテ島タクロバン・タナウアン

目次

目次	2
団体紹介	3
活動概要	4
事前準備	5
被災地視察	6
傘の配布	7
仮設住宅訪問	8
再建学校除幕式	9
参加者感想	10
ご協力者様一覧	11

縁 縁プロジェクト

縁プロジェクトは東日本大震災発災後、宮城県東松島市でのボランティア活動メンバーが中心となり、大田区、大田区被災地支援ボランティア調整センター及び東松島市と連携、協働し、さまざまな活動を行い、将来にわたっての相互交流事業を展開しています。

また東松島市を始め、あらゆる被災地で培った経験と知識、メンバー同士のつながりを、大田区内の地域防災活動に活かせるよう活動していきます。

ホームページ: <http://otaenishiproject.jimdo.com/>

DAREDEMO HERO DAREDEMO HERO

DAREDEMO HEROは「構造的な貧困層からの脱却と自立した生活を営める手助けをする」ことを理念に、フィリピンのセブにいる「貧困層の子どもたちの支援」をする団体です。

台風30号緊急復興支援では『支援が後手に回るエリアで復興支援』『時間と共に変化する必要物資を目に見える形での直接支援』を行っています。現在、縁プロジェクトメンバーが、現地スタッフとして、被災地支援に取り組んでいます。

ホームページ: <http://daredemohero.com/>

<https://www.facebook.com/#!/DaredemoHero2013>

活動概要

趣旨

2013年11月8日早朝にフィリピン中部に上陸し、死者6,000人以上、行方不明者2,000人を超える被害が出した台風30号。

2月に行った支援活動では、2,000人規模の物資配布を行い、少人数で大規模な支援活動を行う際に必要な技術を学びました。また、小学校や継続支援地域での活動を通じ、大規模災害が発生した後に、時間の経過と共に変化する、「必要とされる支援内容」を実際に見て、感じることができました。

今回の支援活動では、前回訪問した「カボイナン小学校」の再建セレモニーへの参加。また、前回に感じた「必要とされる支援」を行いました。

現地支援活動で培った経験と知識を、今後の大田区の地域防災活動に活かしていきます。

日程

平成26年7月3日～平成26年7月7日

活動地域

フィリピン レイテ島タクロバン・タナウアン

活動内容

活動内容	活動場所	活動内容
被災地視察	タクロバン	発災から半年以上が経過した、被災地を視察
傘の配布	セントラル2小学校	被害の大きい小学校の全生徒600人に傘を配布
仮設住宅訪問	タクロバン	仮設住宅での生活を視察・子供たちへ物資の配布
再建小学校除幕式	カボイナン小学校	600人分の炊き出し・遊具の設置・被災児との交流

事前準備

今回もTシャツ、筆記用具を、大田区の有志の方たちに協賛をお願いし、大田区被災地支援ボランティア調整センターのご協力のもと、Tシャツ600枚、たくさんの筆記用具などを集計し現地で配布した。現地で贈呈する縁台について大田区内の畳店に相談するなど和風にこだわり材料、部品調達などにかかなり時間を要した。結局飛行機での現地持ち込みは不可であることがわかり、現地ですべて調達ということになった。これが悪夢のはじまりで現地では欲しい規格のビス、金物の入手が困難で材料の質の悪さときたら話にならない、そんな中での取り組みになってしまった。



被災地視察

2月にも視察した、被災中心地タクロバンの復興の様子を視察しました。

前回に比べ、中心地の復興の様子は著しく、街の機能は回復しているものの、一步郊外に目を向けると、まだまだテントで生活する人々が多くいます。貧富の差による、復興の格差が顕著に見られ、日本における行政の支援の重要性を感じることができました。

前回、2,000人に物資を配布したコンベンションセンターは現在、移動遊園地になっています。数百人の方が亡くなった場所が、遊園地になるという、文化の違いも感じました。



郊外の復興状況



コンベンションセンター



放置された船

傘の配布

レイテ島タナウアン市にあるセントラル2小学校で600人の生徒に傘の配布を行いました。この小学校は、未だに校庭が避難所として使われており、テントが張り巡らされています。フィリピンは7月から本格的な雨季に入り、傘のない子供たちは、雨がやむまで家に帰ることもできません。DAREDEMO HERO現地スタッフが、校長先生と相談し、600本の傘を寄贈することに決めました。寄贈日当日も、雨が降り出し、子供たちはさっそく真新しい傘を広げ、雨が止むのを待つことなく、自宅に帰ることができました。



レインボーアンブレラ



配布の様子



新しい傘に大喜び

仮設住宅訪問

タクロバンの仮設住宅を訪問しました。

現在、レイテ島には公立の仮設住宅は3つしかありません。仮設住宅では、4畳半程度の部屋で最大家族5人で生活をしています。調理場も、トイレも共同で、決して十分な生活とは言えません。

今回の支援活動では、子供たち100人に対し、古着と、文具、お菓子の配布を行いました。

事前の聞き取りで、集会場にイスもテーブルもないということで、大田区立貝塚中同期会様のご支援のもと、テーブル2卓、イス4脚を寄贈しました。



仮設住宅の様子



配布の様子



寄贈された椅子と机

再建学校除幕式

前回は訪問したカボイナン小学校が、縁プロジェクトメンバーの支援もあり、無事再建することができました。再建を記念し、7月5日に盛大な除幕式が行われました。

式の中では、600人の子供たちに親子丼を振る舞い、久しぶりの大規模な炊き出しを、限られた資源のなかで作り上げ、30分という短時間に全員に配布することができました。

また、縁プロジェクトの活動の基本である、「スコップ」の技術を使い、子供たちの遊びの場を整地し、バスケットボードを設置しました。

今回は、縁プロジェクト代表、仙による「縁台」の寄贈も行われ、先生や子供たちにとっても喜ばれました。



遊び場の整地



600人分の炊き出し



バスケットゴールの設置



縁台を製作、贈呈

参加者感想



仙 裕司

カボINAN小学校にて、生徒たちがゆっくり休める和風縁台を2台作り、贈呈した。フィリピンの子供たちがはじめてふれる和風縁台を私が作業しているところが、とてもめずらしく思われ、たちまち人の輪になってしまった。日本の大工道具の使い方など少しレクチャーし生徒たちの興味津津の顔を見て、教えること、学ぶことの大切さを感じることができた。またバスケットボードを作り取り付けたところ、生徒たちの喜びようは、予想外であった。



伊藤 恵子

フィリピンにはダイビングや他国への乗り継ぎなどで何度か訪れています。そのたびに水上生活者など貧困層の方たちを目にしていました。でも今までは彼らから目をそむけようとする自分がいても、真剣に向き合おうとはしてきませんでした。そんな私と違い彼らの自立に向け活動しているdaredemo heroの皆さんには頭が下がります。また東日本大震災の時に炊き出しの列に整然と並ぶ日本人の姿が賞賛されましたが、フィリピンの子たちも負けてはいません。自分の直前で支援物資が無くなっても文句一つ言わずニコニコしている姿には感動しました。これからも応援したいと思います。



橋本 富士子

フィリピンに衣類と文具を届けに行ってきた。この自分のレイテ島行きにしても、東北の被災地へ時々行くことも「ボランティア活動、支援活動」と名乗るのは、おこがましい、はずかしい気持ちであまり口に出して言いたくない理由は、行った先でもいつも知らないことをたくさん勉強できるから、知らなかったことを知ったことでもっと知りたいとおもわせてくれるから、ありがとう



太田 朋美

フィリピンのおおらかな自然と、子供たちの人懐っこい笑顔が好きになりました。貧困と、それに追い打ちをかける台風被害で、この笑顔が失われるのが悲しい。子供たちの未来のために頑張っている人が身近にいること、伝えていきます。かんがえていきます。

ご協力者様一覧

大森建設組合、伝助渡辺工務店、山進タイヤ商会、東京サーハウス、
平川 智津子、小山 陽子、大田区被災地支援ボランティア調整センター
須藤 英児、新明国上教会、大田区立貝塚中学校同期会、市原 孝子、
二木 恵造、清水 直子、望田 幸子、藤井 一郎、清水 千湖、黒崎 明子
小林 桂子、三谷 司朗、エアークリッパー、鈴木 ふみのり、小柳出 ゆみ
小林 じゅんぺい(敬称略)

